

関東甲信越地区における地区 助成事業とLibrarian2020プ ロジェクトについて

令和4（2022）年12月2日（金）オンライン
国立大学図書館協会地区協会助成事業成果共有会
「地区協会助成事業のこれまでとこれから」
関東甲信越地区
千葉大学 大園岳雄

はじめに

- 関東甲信越地区会員館（15大学）

茨城大学・筑波大学・筑波技術大学・宇都宮大学・群馬大学・埼玉大学・千葉大学・横浜国立大学・新潟大学・長岡技術科学大学・上越教育大学・山梨大学・信州大学・総合研究大学院大学・放送大学

- 地区協会助成事業の運営（実施）体制

- 平成28年度まで

当番校に一任

- 平成29年度以降

研修企画委員に一任

関東甲信越地区における地区助成事業

(平成20年度)

- 大学図書館職員研修「ad!ライブラリー～大学図書館効果的広報戦略～」(主担当大学:東京大学)※東京地区と合同

(平成22年度)

- 関東甲信越地区大学図書館シンポジウム@つくばテーマ「学習支援:2020年これが図書館の生きる道」(主担当大学:筑波大学)

(平成23年度)

- 関東甲信越地区大学図書館職員セミナー「安心安全な図書館とは—あなたの図書館は安全ですか?」(主担当大学:総合研究大学院大学・横浜国立大学)

(平成24年度)

- 平成24年度関東甲信越地区大学図書館セミナー「電子書籍時代の学習支援・教育支援を考える」(主担当大学:信州大学)

(平成25年度)

- Beyond Library, Beyond Librarian: 関東甲信越地区国大図協セミナー地区(主担当大学:茨城大学)

(平成26年度)

- 平成26年度関東甲信越地区国立大学図書館協会セミナー「10年後の大学図書館を考える」(主担当大学:横浜国立大学、筑波大学)

(平成27年度)

- 関東甲信越地区国立大学図書館職員研修会ならびに平成27年度群馬県大学図書館協議会第1回研究会(群馬県図書館協会図書館(室)職員専門研修)一人が本と出会ったための環境づくり(主担当大学:群馬大学)

関東甲信越地区における地区助成事業

(平成28年度)

- 関東甲信越地区国立大学図書館職員研修会タイトル「大学図書館における障害学生支援～障害者差別解消法の施行を受けて」（主担当大学：筑波大学）
- 関東甲信越地区国立大学図書館職員研修会「子どもへの読み聞かせに関する研修会－読み聞かせにチャレンジ」（主担当大学：上越教育大学）
- Librarian 2020 プロジェクト（主担当大学：筑波大学）

(平成29年度)

- Librarian2020プロジェクト関東甲信越地区国立大学図書館職員研修会「大学図書館における学生協働とその運営」（「Librarian2020プロジェクト」による企画・開催）（主担当大学：筑波技術大学）

(平成30年度)

- 関東甲信越地区国立大学図書館職員研修会（「Librarian2020プロジェクト」による企画・開催）テーマ「図書館職員のための調査手法とデータ分析の基礎」（主担当大学：放送大学学園）

(令和元年度)

- 関東甲信越地区国立大学図書館職員研修会テーマ「地域の地の拠点としての大学図書館」（主担当大学：宇都宮大学）※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止

(令和2年度)

- 令和2年度関東甲信越地区国立大学図書館職員研修会「みんなはどうする？どうしてる？－withコロナ時代の図書館を語ろう」（主担当大学：長岡技術科学大学）※Zoomによるオンライン開催

※令和3年度はLibrarian2020プロジェクトの評価を実施

Librarian2020プロジェクト

NII研修担当者、東京地区協会研修企画委員などにインタビューを行い、
当地区の実情を鑑みて検討

- 地区研修の意義
- 研修企画委員の導入
 1. 委員は若手職員とする
 2. 任期は2年とする
 3. ブロック制の導入
 4. 各大学への要望
- 研修の内容
- 実施方法
- 評価

研修企画委員制度

平成28年度にLibrarian2020プロジェクトによる研修のあり方について検討を行った結果、若手職員のスキルアップ・意識向上を図り、また、地区内の近隣大学職員同士のネットワークを構築するため、研修企画委員制度を実施した。

- 選出方法等

関東甲信越地区を2ブロックに分け、それぞれのブロックが2年ずつ任に当たる。選出にあたっては、任に当たるブロックの各大学から原則として若手職員1名を推薦する。ただし、委員の選出が過大な負担等となる場合には任意とする。また、若手職員の定義はフレキシブルに考えるものとする。

- 任期

研修企画委員の任期は2年とする。ただし、委員に交代があった場合は、残余の期間とする。

- 当番間館の任務

研修企画委員の連絡調整及び研修会場の提供等、企画実施にあたっての支援を行う。

- 評価

2ブロックが一巡する4年後に、制度及び研修方法や実施内容、また、地区助成事業のあり方について評価を行い、今後の方針を再検討する。

Librarian2020プロジェクトの評価

- 令和3年度、研修企画委員制度による「Librarian2020プロジェクト」を評価するため「評価タスクフォース」を設置。
- メンバーは、「Librarian2020プロジェクト」の実施において職員研修会当番館をつとめた大学および令和3年度当番館、地区理事館から各1名を推薦。
- 評価タスクフォースに関する事務は、令和3年度の職員研修当番館である千葉大学が担当。
- 「Librarian2020プロジェクト」について4年間の実施状況を検証し、研修企画委員制度及び研修方法や実施内容、また、地区助成事業のあり方について評価を行い、これを踏まえた令和4年度以降の関東甲信越地区研修事業の枠組みを検討する。

Librarian2020プロジェクトの評価

- 研修企画委員制度の実施について（改定案）（令和4年4月26日国立大学図書館協会関東国信越地区総会承認）
 - 「Librarian2020プロジェクト」評価タスクフォースが評価を踏まえ作成
 - 研修企画委員制度自体の目的（研修企画委員制度は、時宜を得た有益な研修事業を地区協会として円滑に実施するとともに、研修企画や他機関職員との協働を通して若手職員を中心としてスキルアップを図ること）について明記
 - 研修企画委員会の構成として、主査及び副主査、アドバイザーの設置を追加
 - 研修企画委員の選出方法等や任期、当番館の任務などについては大きな変更なし
 - 研修企画委員制度は、研修事業の実施状況を踏まえ、また地区助成事業や図書館職員の研修に求められる内容の今後の変化に対応して、必要に応じ見直しを加える

おわりに（発表者の所感）

- これまで関東甲信越地区に限らず各地区において研修を主体とする地区協会助成事業が展開。
- テーマについてもその時々課題を踏まえ、地区レベルにおける図書系職員の育成、コミュニケーションの構築に一定の成果。
- コロナ禍以降、オンラインによる開催形式が主流？
- 結果として、地区協会活動支援の一環としての地区助成事業であるが、成果の共有のみならず、地区の垣根を超えての参加も容易に。

→このことについてどう考えるか？